［入選］筑波山おもてなし館

●有限会社 時空遊園　住所／茨城県つくば市榎崎999-7　電話／029-850-6710
●協力事務所　電気・機械／有限会社 土浦建築設備設計事務所
●建物所在地／茨城県つくば市大字沼田字新田1690-3
●建物用途／休憩所　●構造／在来木造　●建築面積／117.65㎡　●延床面積／147.98㎡

現代的な透明感で風景と建物が混ざり合う

建築の目的は以下のとおりです。①梅のシーズンだけでなく、通年を通して観光客を呼べること。②フィールドアスレチックスの受付や事務所が必要であること。③暗いイメージがあった民間施設の跡地を、明るく、品格のあるイメージに変えること。④くつろげる場をつくること。

建築のデザインは、これまでの偽民家調の建物とは対照的な、現代的な透明感で、風景と建物が際立ちながらも混ざり合うものをめざしました。

構造は在来木造ですが、耐力壁を外周に井桁状に配置することで、室内と室外を隔てる壁を取り払いました。林の中を散策して通り抜けるような感覚で、2方向からアクセスできます。

縦のラインは、木製建具とし自然の風景を邪魔しない色合いにしました。それに対し、破風と天井は、自然がより際だって見える演出として逆に白く浮かび上がらせました。高さのボリュームを抑え、樹林の風景を邪魔しないようにしました。

［入選］水戸第二高校・特別教室棟

●三上建築事務所・エイプラス建築関連業務共同企業体
住所／茨城県水戸市大町三丁目4番36号　電話／029-224-0606
●協力事務所　構造／三上建築事務所、大賀建築構造設計事務所
電気／三上建築事務所、前川プランニング　機械／三上建築事務所、NASファシリティーデザイン室　●建物所在地／茨城県水戸市大町2丁目2番14号
●建物用途／高等学校校舎　●構造／RC造一部S造　●建築面積／1,359.03㎡　●延床面積／3,725.93㎡

直射日光を制御し、夏期の日射を遮蔽する

水戸第二高等学校は、明治33年茨城県高等女学校として発足し、2010年に創立110周年を迎えた県内有数の伝統校です。最近ではスーパーサイエンス・スクールとして実績を上げています。

本校舎は、先の東日本大震災により被災を受けた校舎の建替事業として計画されました。

水戸市中心部にある敷地の有効活用の観点から、既存校舎と比較してコンパクトに集約されました。校舎は中央に3層吹き抜けの動線空間を設け、南側に1・2年生の普通教室、北側に理科系・家庭系の特別教室、SSH研究発表会や講演会などにも使われる視聴覚室などを配置しています。直射日光を制御し、夏期の日射を遮蔽するバーチカルなルーバーが生み出す表情によって、校内景観を大きく更新しました。

歴史と伝統に加え、特色のある教育を実践している水戸二高に、夢と希望を託した生徒一人ひとりの志を実現するにふさわしい学校のシンボルとなることを期待します。

写真：堀内広治

［入選］にじいろ保育園

●株式会社 増山栄建築設計事務所　住所／茨城県土浦市荒川沖西1-1-4　電話／029-843-6011
●協力事務所　構造／有限会社 MASA建築構造設計室　電気／サンエス電気設計事務所
機械／有限会社 柴原建築設備設計事務所　●建物所在地／茨城県つくば市大角豆字池下961番1
●建物用途／社会福祉施設（保育園）　●構造／木造　●建築面積／881.40㎡　●延床面積／780.00㎡

季節の変化感じ自然の恵みに感謝する家

つくば市の自然豊かな場所に建つ保育園です。

保育園は子供たちにとって大きな家であり、季節の変化を五感で感じ自然の恵みに感謝しながら日々を過ごしてほしいという施主の思いがこめられています。

木造平屋で越屋根がある和を基調とした建物とし、通園路は既存の雑木林を残して園児たちが木立の間を通ることができます。残土を再利用した建山では園児たちが幼苗緑化をしながら「共に成長できる森」になるように計画しました。

保育動線や見守りに配慮し、各保育室を明確に分けながらも可動間仕切により多用途に使えるようにしました。越屋根による重力換気、土壌蓄熱式床暖房等、自然の力を積極的に取り込みました。

色彩やインテリアは、園児専用の小さな木製ドア、木の幹を意識した図書コーナー、国産材を利用した家具や内装材を通して木の温もりを感じられるようにしました。

［入選］古河市立学校給食センター

●株式会社 日立建設設計 設計本部一級建築士事務所　住所／東京都千代田区内神田3-11-7　電話／03-6757-7116
●協力事務所　構造・電気・機械／株式会社 日立建設設計 本社設計部一級建築士事務所
●建物所在地／茨城県古河市関戸1014-1他5筆　●建物用途／学校給食センター　●構造／鉄骨造　●建築面積／4,004.06㎡　●延床面積／5,532.62㎡

幅広く食育を推進できる工夫とビタミンカラー

本建屋は、既存3施設の老朽化により統廃合して建て替えられた、12000食の提供が可能な学校給食センターである。計画では「地域の安心を支える給食センター」のコンセプトを基に、「安心・安全」「地域の食育推進・発信拠点」をキーワードに計画した。

1階の調理エリアはHACCPの概念に基づくレイアウトと最先端のドライ厨房システムを採用し、高度な衛生管理と効率的な運営を可能にした。2階の食育エリアには、下処理室から調理・洗浄まで一連の作業が見学できる大きな見学窓を設けるとともに、エアシャワーや回転釜・撹拌器具を設置し疑似体験できる体験コーナー、パネル展示や掲示ができる展示ホール、見学会、試食会などの活用ができる会議室など、幅広く食育を推進できる工夫をしている。また内装は、ビタミンカラーをテーマとした明るいカラフルな計画とし、子どもたちが「見て・触って・体験して」魅せられる食育推進・情報発信拠点となる施設を目指した。